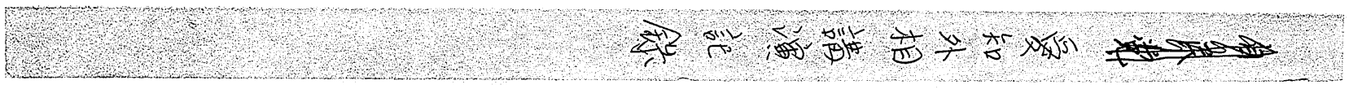
琉球大学学術リポジトリ

復帰準備2

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-01-29 キーワード (Ja): 復帰準備, 沖縄の諸制度, 沖縄復帰準備委員会 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43399



アメリカ局長
安全保障課長
参事官
北米オ一課長

秘密標記（赤色）
秘
無期限

（　　）第513号
昭和46年8月26日

外務大臣殿

在準備委代表事務所
高瀬代表

（件名）
未完成プロジェクト

引用公・電信 日付・番号	貴信米北1合才3535号

8月25日の沖縄事務局との定期連絡会議の際に、小林指導課長より本件に関する8月20日東京における各省会議の内容ならびに（8月23日の）同課長と民政府クレーマ計画局長ほびクラー

付属添付 ☐ 付属空便（行）☐ 付属空便（DP）☐ 付属船便（貨）☐ 付属船便（郵）☐

本信送付先：
本信写送付先：
省内写配布希望先：

要処理
事務官
務
縄
調査
業
空
協力
調整
査
カナダ
局庶務

46.8.27

GA-3-1　在外公館

7渉外局長との非公式会談の模様につき別紙の通り説明があったので、参考までに報告する。

GA-4　外務省

（　部の内　号）注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

507

総番号（TA）39488　主管
71年8月7日13時25分　沖縄　発
71年8月7日13時34分　本省　着　米北

外務大臣殿　高瀬大使　臨時代理大使　総領事　代理

シマダ防衛施設庁長官の来ちゆう（ヤラ主席との会談）

第854号　略　至急

5日午後行なわれたシマダ長官とヤラ主席との会談中特に注目される点次の通り。（委細公信）

長官：返かん協定で88施設の提供が決つており、このための土地問題が大変な作業である。現在タニグチ次長以下20人の職員ではどうにもならんので増員して復帰時に施設局の設置を考えている。

労務問題については、復帰時に間接雇用に移行し、雇い入れ、労務管理、給与の支払い等の事務はけんに委任する。このため主務課、労管を設置していただくことになる。復帰前に人員を集めて給与の支払い等の事務能力をつけてもらう必要がある。当初基幹要員を養成し、その後他の職員の養成に当る。規模は250人位、復帰のよく月から給与の支払いを開始することとなる。

主席：現在りゆう政の労務局渉外労働課に11人しかいない。これの強化ということになる。準備をするにも労働局長と話したが、未だ具体的になつていないという事だつた

外務省

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

。

アンザイ労務部長：労働条件、給与条件は軍、組合と話し合いで本土なみに切替える。事務的な問題は今からでもわかつているので準備は始められるが、事前に人を集めるのが難しいと聞いている。

主席：急に補じゆうすることは難しい。予算の関係もある。

長官：予算は復帰後は施設庁が計上しけんに渡す。復帰前は復帰対策費に計上してある。人件費は全体のドンブリのやりくりだと聞いている。研修旅費、事務費は計上してある。

主席：事務所は新しく作る必要がある。1カ所という訳にはいかない。

アンザイ：最低2カ所は必要だ。

主席：増員なしの人員やりくりは非常に難しい。各局が聞くかどうか。人数はどれ位必要か。

アンザイ：復帰の時点までに段階的に増員して約250人、復帰後はそのまま行く。

主席：けんになつた時点では動かせる。復帰前に250人というのは大変だ。

アンザイ：基幹要員は目途がついたと聞いている。その後の割り振りを早目に願いたい。

外務省

注　意
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

秘

電信写

主席：間接雇用にしてもこれ以上に道はないことは理解している。よくみんなに理解させる必要がある。

長官：よろしくお願いする。給与条件、労働条件はわれわれと米軍、全軍労とでやつていくので御めいわくはかけない。事務的には今後も労働局と相談していきたい。

主席：これは大事な問題だ。基地労働者に安定感を与えるために必要だ。

長官：土地の問題は土地連とやるが、主席の側面からの援助を得たい。

主席：基地の契約に反対している動きもあるが好むと好まぬとにかかわらず事実としてどう乗り切るかが大切だ。困難とは思うがやつて行かねばならぬ。

（了）

外務省